



## 次世代省エネ住宅で木材流通と消費者ニーズを直結する

株式会社スペースマイン 奈良県大和郡山市

株式会社スペースマインは平成9（1997）年に大和郡山市で創業。創業者である現会長矢島美和子氏がお客様にとって一番居心地の良い我がまま空間、Space（空間）+Mine（自分流の、自分だけの）の提供を目指して社名とした。

元々は専業主婦であった同氏が、理想の家づくりを目指してリフォームからスタートした同社は、デザイン、設計、インテリア、そして外構と、専門性を生かしたトータルプランニングと、自然素材の使用による健康・快適な空間づくりを打ち出し、現在では、リフォームから新築までの一貫体制を構築。奈良県産無垢材使用による、省エネと環境にやさしい家づくりにも取り組んでいる。

### 会社概要



会社名：株式会社スペースマイン  
本社：奈良県大和郡山市田中町 834-1  
電話：0743-58-2801 FAX：0743-58-2802  
創業・設立：1997年（平成9年）  
代表者：代表取締役会長 矢島美和子  
（写真）代表取締役社長 矢島 一はじめ  
資本金：1,000万円 従業員：13名  
事業：住宅・店舗のリフォーム・新築  
工事、建設工事の請負・設計・  
施工・管理、外構・ガーデンエ  
クステリア工事、ガーデン雑貨・  
生活雑貨販売、不動産取引業  
URL：<http://www.spacemine.co.jp/>



本社兼ショールーム「四季の家」

### 一番居心地の良い自分だけのわがまま空間を提供

株式会社スペースマインは、現会長矢島美和子氏が、施主にとって一番居心地の良い癒される家づくりを目指してリフォームからスタートした。

デザイン、設計、インテリア、そして外構と、施主の思いを生かしたトータルプランニングを行い、また自然素材の使用を打ち出し、健康と癒しにも取り組み、現在ではリフォーム受注額は県内2位を誇るに至っている。

さらに、地域風土に根ざした快適・健康の家づくりを目指して住宅建築にも進出し、リフォームから新築までの一貫体制を構築した。

### 自然の力で快適な「エアパス工法」の健康エコ住宅

家族が快適に暮らし、体にもやさしく癒される家づくりを追求する中で見出した答えが「自然素材を使った家づくり」であり、無垢の木材の良さを生かすことである。

さらに、地球規模で環境問題が深刻化し、住宅建築でも省エネルギー、環境負荷低減が叫ばれるようになった近年、同社が取り入れたのが「エアパス工法」である。これは、機械設備を使用せず、太陽や風といった自然エネルギーをパッシブ（受動的）に取り入れ、快適・健康・高品質を兼ね備えた経済性の高い省エネ住宅で、パッシブソーラーハウスと呼ばれるものである。冬は太陽の熱を取り入れ、夏は風の流れを取り入れることで快適性を確保し、それを逃さない断熱性能を備えた、日本の風土に根ざす快適・健康住宅といえる。

### 県産材の積極利用で優良住宅建築と環境保全に

また、同社がいち早く取り組んだのが、耐久性などの性能に優れた優良住宅の建築である。

日本の住宅耐久力は平均26年といわれ、大量



無垢の木による健康・安全・安心の癒し空間創出と高い省エネ性能、そして構造美が映える設計。



近年、伝統的な木造建築の美しさが見直され、古民家のリフォームに携わることも増えた。

の廃棄物の源となってきた。そのため、世界が省エネ・省資源、地球環境保護に向かう中、現在、政府は100年以上の耐久力を持つ「長期優良住宅」を推進するようになったが、同社では、早くから将来を見据え、その基準にさえ適合する高性能の家づくりを進めていた。

さらに、地元産の優良材である「奈良県地域認証材」の使用により県内林業の活性化と自然保護にも注力している。この認証材とは、強度性能（ヤング係数）が表示され、含水率を20%以下に乾燥することにより寸法変化が起りにくい、「環境に優しく」「安心できる」製材品である。

また、平成20年度より十津川村で、林業・木材産業関係者と地域ビルダーが連携し、木材流通を促進しようとする「十津川郷土の家」ネットワーク事業が開始されたが、同社では、当初から加盟し、山林の保護とエンドユーザー（施主）に木の良さを知ってもらう活動を繰り返し広げている。

平成24年4月に、橿原市内の大型商業施設「イオンモール橿原」に、十津川村産材を使用した省エネ型モデル住宅「十津川の森・木灯館」が完成したが、その施工にも携わった。

## 時代は低炭素・循環型のまちづくりへ

現在の政府の住宅関連政策の基本姿勢は、「低炭素・循環型まちづくり」の推進と言え、省エネ、木造化推進が柱となっている。

住宅の木造化推進政策としては、「木のいえ整備促進事業」として以前から存在したが、平成24

年度には、「地域型住宅ブランド化事業」が新たに打ち出された。地域工務店等とこれらを取り巻く関連事業者が、地域材を活用して地域の気候・風土にあった、良質で省エネ性能の優れた「地域型住宅」の供給を促進している。

奈良県内でこの活動を担う団体として「奈良匠の家協議会」があるが、同社もこれに参画しネットワークの輪を広げている。

## 自然素材の癒しと木の家の構造美の追求

今年1月に社長を引き継いだ矢島一氏は、まだまだ奈良県産の地域認証材のアピール不足と感じ、地域ブランド化には、林業・製材業から工務店に至るさらに多くの事業者がネットワークを形成し取り組むことが必要と説く。

さらに、同社が追求するのが「木の家の構造美」である。現代風の建築では、柱などが壁の中に隠されている大壁工法が主流となり、建築木材の組み合わせが直接的に目に触れることは少なくなった。湿気を吸ったり吐いたりする木を隠してしまうとともに、木造住宅の構造が醸し出す美しさが忘れられかけている。

しかし、その中で、近年、古民家が人気化するなど、木の構造美が見直されつつあり、また、癒しを求めて木質系の内装にもエンドユーザーが関心を寄せるようになってきた。まさに、同社のビジョンと戦略は、時代に先駆けて動いているといえよう。

(山城 満)